

2025年 4月 1日

退職教職員協議会双葉支部会員のみなさま

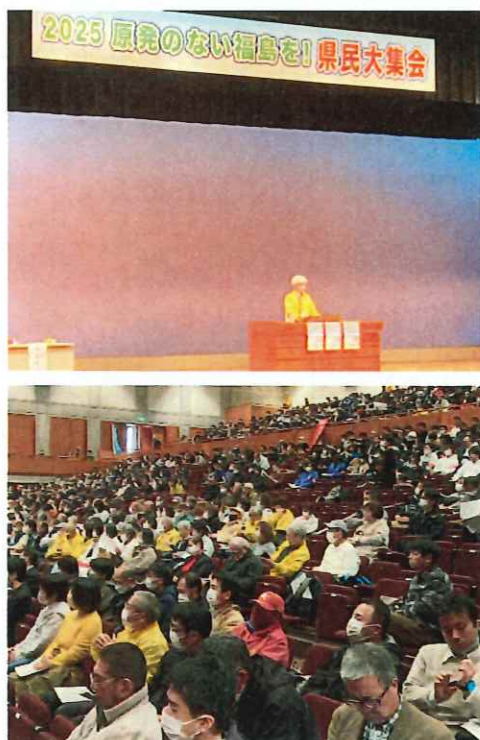
福島県退職教職員協議会

双葉支部 事務局

退教協双葉支部「退教協ニュースNo.412号」 の送付にあたって

東日本大震災・東電福島第一原発事故から14年がたちました。しかし、880tあるといわれる「核燃料デブリ」を耳かき1杯程度をようやく取り出しただけで、住民の帰還もまだまだ進まず、国の支援策の廃止や縮小ばかりが進む中、

「原発への依存度を減らす」から「最大限の利用」と方針転換した「エネルギー計画」は、私たち双葉郡に住んでいた者の感情を逆なでするものでした。そうした中、3月15日に「原発のない福島を！県民大集会」がパルセいいざかで開催されました。退教協双葉支部からは2名が参加し、双葉支部として「団体賛同金」も納入しました。



集会の最後には、「原発事故は終わっていない」「フクシマの悲劇を繰り返すな」のプラカードを全員で掲げ、アピール行動を行いました。



震災後、広島・長崎で始まった「高校生平和大使」の活動に福島からも参加しています。高校生平和大使の福島県代表は、県民大集会で司会を務めたり、メッセージを述べたりしてきました。今回も、ジュネーブ訪問を中心に発言をし、若い力のアピールをしてくれました。今の高校生は、震災当時は3、4歳です。その高校生たちが「核」について学習し、自分の考えや誓いを表明する姿に感動しました。今回の福島県代表の一人は大熊町出身です（向かって右）。震災当時の記憶はさだかでなくても、「避難」を経験しました。こうした若い方々が、「原発災害」をしっかりと語りつないでくれるものと期待しています。

（言わないではいけない） 今回は、国内外の情勢については詳しく触れることはできませんでしたが、これだけは……。ウクライナ、ガザ地区での戦闘が早期におさまることを誰もが願っています。そのためには、当事者どうし、または仲介者をはさんでの「話し合い」というものが不可欠です。そこでは、何らかの「妥協点」を見出す必要もあるでしょう。絶対にあってはならないことは、当事者以外の者（国）が自分の利益を得る目的で当事者どうしの話し合いに介入することです。それは、第二次世界大戦やイスラエル建国の経緯とその後の混乱からも明白です。そういう暴挙に対し、しっかりと批判する姿勢は、私たちにも、そして日本をはじめとするそれぞれの国にも求められるものです。

**原稿を
お待ちして
います**



なぐり書きでも結構です。用紙もどんなものでもかまいません。テレビや映画などの感想も大歓迎です。ぜひ、投稿をよろしくお願いいたします。お待ちしております！

○ 住所等の変更及び会報の原稿は、下記の連絡先までお願いいたします。

○ 連絡先 （事務局長）柴口正武 宅

〒976-0036 相馬市馬場野字寺内175-5

※ 電話は 090-2604-8941

※ ファックスは 024-522-7751

（弘済会福島支部／柴口勤務先）

※ 電子メールは shibaguchi0211@gmail.com



2025年 4月 1日

第412号

退教協 ニュース

俳句～弥生三月

広野町（富岡町）鎌田美津枝

（投稿いただいた際の「前文」もそのままお届けします）

早や弥生三月、今年も宜しくお願い致します。使えるものがあればお願いします。（鎌田）

春よ来い付箋増えたる時刻表 美津枝 美 	せせらぎの二重奏聴く猫柳 美津枝 美 	筍の皮剥ぐごとに香り立つ 美津枝 美 	団子屋ののれん押したる さくら東風 美津枝 美 	春色のシヨールひと巻き 旅にあり 美津枝 美 	満中陰の墓地に溢れる黄水仙 美津枝 美 
---	--	--	--	---	---

（柴口）「季語」などがあって、不勉強な私には分からない言葉もあって、「AI」に頼りながらのイラスト作成となりました。その際の「AI」の説明も紹介します。

【さくら東風（ごち）】桜の咲くころに吹く東の風を指します。穏やかで暖かい春風が吹く少し前、ほんの少し冷たさの残る東風のことをいいます。

【満中陰（まんちゅういん）】仏教用語で「中陰（四十九日）」が満ちることを意味し、忌明けと同じ意味です。

【黄水仙（きずいせん）】春の季語です。ヒガンバナ科の多年草です。ちなみに「水仙」は冬の季語になります。

延長12回

by Monster 松

巨大クレール見上ぐる先の
春の月

美津枝 美



白魚の光る請戸の競りの声

美津枝 美



分校の解体さなか白鳥帰る

美津枝 美



（事務局より）

実は、鎌田さんからは昨年末にもいくつかの俳句を送っていただきました。でも、その前に届いた原稿の掲載もあり、季節的なことにより悩んでいたところでした。そんな折に、鎌田さんから「春」にちなんだ句をいただき感謝しました。これまでと同様、鎌田さんが句を詠んだ時の「情景」を思い浮かべながら挿絵を描かせていただきました。鎌田さんの俳句はあと5つ残っています。次号以降に紹介していきたいと思います。

次号は、久保田さんの投稿をお送りいたします。いよいよシリーズ「第九への道」の完結編となります。

2025年 5月 1日

退職教職員協議会双葉支部会員のみなさま

福島県退職教職員協議会

双葉支部 事務局

退教協双葉支部「退教協ニュースNo.413号」 の送付にあたって

桜の季節も過ぎ、次は大型連休が待ち遠しいころとなりました。ご家族と久しぶりに会う予定がある方もいらっしゃると思います。楽しいひとときをお過ごしください。

春の暖かい日差しが降り注ぐ中、日本も世界もさまざまなことで振り回され、とまどい、不安にかられています。世界中を大混乱に陥れた「トランプ関税」。円安は止まったものの株価は暴落。備蓄米を放出してもなかなか下がらない米の価格。物価の高騰も止まらないまま。進展がほとんど見られないウクライナとロシアの紛争とガザ地区での人道危機。自分だけよければいい、という「空気」が世界中に広がっていることに、大きな不安を感じてしまいます。

会計関係 報告・提案いたします

2024年度会計決算報告、並びに2025年度の予算（案）をお送りいたします。本来であれば、総会を開催してそれぞれ承認をいただかなくてもはならないところですが、新型コロナウイルス以降対面での総会を避け、現在にいたっては避難地からの遠距離移動に配慮した上で、会計報告、予算案等については今回もこれまで同様、紙面での報告、提案とさせていただきます。今後の総会、または集会や懇親会の開催については慎重に検討をしていきたいと思っております。何かご意見等がございましたら、事務局までご連絡ください。

会費納入 のお願い

今年度の会費の納入をよろしくお願いいたします。同封の振込用紙をお使いください。

2年ぶりの 『定年退職』

今回の人事異動では、2年ぶりに「定年退職」がありました。「定年」が65歳までに延長になることは決まっていますが、2年に「1歳」ずつ伸ばしていくために「65歳定年」が完了する2032年までは、1年おきに「定年退職」がない年度があります（なかなかピンときませんか）。「定年退職」がなかった前回の人事異動では、200名程度の退職者がいました。定年が伸びても、「60歳」を目標に勤務してきた教職員にとっては、その「60歳」が退職の時と考えている方も多いということです。今回は県教組双葉支部の組合員の退職はありませんでしたが、原発事故による避難のために他支部での「定年退職」、または「普通退職」を迎えた方はいらっしゃいます。その方々にも「退教協双葉支部」へお誘いをしていきます。

（資料）今後の定年年齢と「定年退職」の有無

年度	2022	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
定年年齢	60		61		62		63		64		65	
定年退職	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	あり

現在、まだ新会員はいらっしゃいませんので、「会員名簿」の送付は行いません。新しいなかまがあれば、昨年度同様に年度途中でも「会員名簿」を作成し、みなさまにお送りしたいと思います。

原稿を
お待ちして
います



なぐり書きでも結構です。用紙もどんなものでもかまいません。テレビや映画などの感想も大歓迎です。ぜひ、投稿をよろしくお願いいたします。お待ちしております！

○ 住所等の変更及び会報の原稿は、下記の連絡先までお願いいたします。

○ 連絡先 （事務局長）柴口正武 宅

〒976-0036 相馬市馬場野字寺内175-5

※ 電話は 090-2604-8941

※ ファックスは 024-522-7751

（弘済会福島支部／柴口勤務先）

※ 電子メールは shibaguchi0211@gmail.com



2025年 5月 1日

第413号

退教協 ニュース

ベートーベン第九演奏会

ーシリーズ「第九への道」(その5 完結編)ー

いわき市(大熊町) 久保田亮次

(前回までのあらすじ)。相双地区の合唱団の責任者による「第九演奏会・相双地区実行委員会」が立ち上げられ、久保田さんも参加することになり、演奏会を目指して動き出しました。

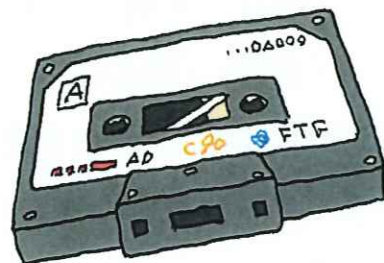
交響曲第九番、第四楽章(合唱付)の楽譜。ソリスト(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、混声四部合唱、すべて、原語(ドイツ語)。

【注】初心者用は、原語にカナを。上級者用は原語(ドイツ語)。第九演奏会への出演者、浪江混声合唱団からは、女性4名。男性は3名(志賀雄一(テノール)、田巻照男(バス・会社役員)、久保田亮次(バス))

《演奏会までの過程》

①〔各個人〕

パート毎のデモテープを用いて練習を重ね、全体の流れをつかみつつ、自分のパート(私はバス)に慣れ、最終的には、演奏にあわせ自由に歌えるようにする。



私はもっぱら自家用車の中でデモテープをかけ曲に親しみ、慣れ、歌えるようにした(日陰の場所をさがしてそこで思いっきり)。また、走行中に常に第四楽章をかけた。

②〔小グループでの練習〕

- 1) 浪江混声の出演者での合同練習。
- 2) バスの田巻さんの提案で、田巻さん宅で練習。



テノール・志賀雄一、バス・田巻照男、久保田亮次の3人で、第四楽章テ

ープをかけ練習した。各小節ごとをみると、バスのスタートは、テノールの後が続くことが多い。特に気を付けて進めた。

③〔2回の合同練習〕

原町の大きな地区センターで、いわき交響楽団の指揮者が、出演者に心得と演奏上の注意。そして、第四楽章のテープをかけ合同演奏。(このあとは、会場「ゆめはっと」で本番の演奏会) 浪江～原町の往復は、志賀雄一さん、田巻照男さんにお世話になった。

- 服装は(男) 礼服に黒の蝶ネクタイ。(女) 上は白のブラウス、下は黒いスカート。(大合唱団、100名以上(150名位だったか))
- 合唱団(ソプラノ)(アルト)(テノール)(バス)の定位置。自席で腰を下ろす。(注) 第三楽章の終わりころ、指示された小節で一斉に起立する。

《演奏会当日》

(期日) 平成12年(2000年)10月

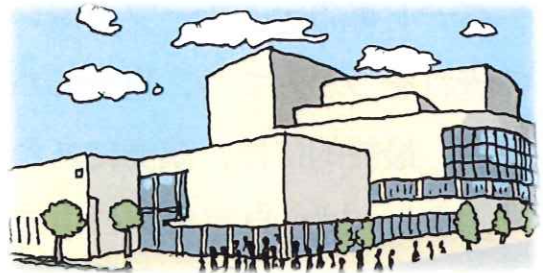
(会場) 「ゆめはっと」 ※(旧) 原町市民会館

※開演前に「いわき交響楽団」(定位置に)

- 開演に先立ち主催の金子さんの挨拶。

〈開演〉

- 指揮者が入場、指揮台に。
- 第一楽章 演奏開始。
- 第三楽章の終わり近くに、ソリスト(ソプラノ、アルト、テノール、バス)の4名がステージに。
- 大合唱団、第三楽章の指示された小節で一斉に起立。
- 第四楽章(合唱) 演奏開始。
- 合唱のスタートは、第九の代表的なメロディ。



いざ、歌うとなると緊張感。原語(ドイツ語分かるわけなし)。自分のパート(バス)を正確に(テノールの次に歌うこと多し)。演奏の進行にした

がって合唱が進んだ。楽譜を夢中で追いかける。

4人のソリストのプロが醸し出すハーモニーのすばらしさに魅了された。

○ 自分が歌うことで、演奏会がぶちこわしにならぬよう留意した。

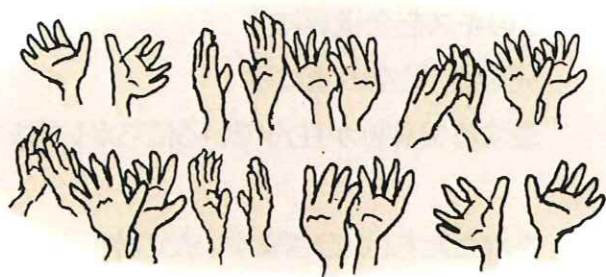
○ そして、最終の一楽章。最終節。

“f “(強く) Freu-de, scho...ner

“ff “(もっと強く) Got-ter-fun-ken!

○ 指揮棒がおろされた。バス、歌い切り、感動の涙が流れた。

○ 会場からの割れんばかりの盛大な拍手に感動、ひとしお。



○ 〈全訳〉(終わりの方)

「太陽が大空の広大な平地を飛翔するように、喜ばしく、兄弟よ、君達の道を走れ、勝利に向かう勇士のように楽しく」

— 〈終〉 —

5回にわたってお送りした「第九への道」は今号で「完結」となりました。久保田さん、貴重な原稿、ありがとうございました。次号では、「初」となる高野正美さんの投稿をお送りします。

忘れないうちに

by Monster 松



※ 頁が空きましたので、「第九」の日本語訳を紹介します。今回は、ネットから引用したもので、数多くある訳の一つとご理解ください。

「第九(歓喜の歌/合唱)」の歌詞

ああ 友よ、この音楽ではない
そうではなくて 心地よく
喜びに満ちた歌を始めよう

喜びよ、美しい靈感よ
死後の樂園の娘よ
私たちは 情熱に陶酔し 足を踏み入れる
天の あなたの聖域へ

あなたの魔法が再び結びつける
時の流れが厳しく分裂させたものを
すべての人々は兄弟となる
あなたの柔らかな翼がとどまる場所で

一人の友の中の友となる
偉大な成功をおさめた人よ
美しい妻を伴侶にした人よ
喜びの声を一つに混ぜ合わせよう

そうだ、地球でたった一人の人間も
(喜びの声を一つに混ぜ合わせよう)
そして そうできない人は 出ていけ
泣きながら この結びつきから

すべての存在は 自然の乳房から
喜びを飲む
すべての善人とすべての悪人は

あなた(創造主)のバラの足跡についていく

あなたは私たちにキスとブドウの木と
死の試練を与えられた一人の友を渡した
快樂は虫(のような人間)にも与えられ
ケルビムが神の前に立つ

喜びをもとう、太陽が 華やかな空を
飛ぶように
走れ、兄弟よ、あなたたちの道を
喜びを持って、英雄のように 勝利に向かって

抱き合おう、何百万もの人々よ！
このキスを全世界に！
兄弟よ、星空の上には
愛する父(神)が住んでいるにちがいない

あなたたちは ひざまずいたのか、
何百万もの人々よ
あなたは 神を感じるか、世界よ
星空の上に神を求めよ！
星々の上に、神は住んでいるにちがいない

※「第九」のもっとも耳になじんでいる部分
だけ、ドイツ語で紹介いたします。

Freude, schöner Götterfunken,

(喜びよ、美しい靈感よ)

Tochter aus Elysium

(死後の樂園の娘よ)

Wir betreten feuertrunken.

(私たちは 情熱に陶酔し 足を踏み入れる)

Himmlische, dein Heiligtum!

(天の あなたの聖域へ)

2025年 6月 1日

退職教職員協議会双葉支部会員のみなさま

福島県退職教職員協議会

双葉支部 事務局

退教協双葉支部「退教協ニュースNo.414号」 の送付にあたって

各地で運動会の便りが届いた5月でした。私事になりますが、天気も良かったので近くの小学校の運動会を見に行きました。競技する子どもはもちろん、係活動をしている高学年の子どもたちの活躍ぶりに元気をもらうことができました。やっぱり、学校っていいですね・・・子どもたちっていいですね。

日本の子どもたちが楽しく元気に運動会に参加している同じときに、ウクライナ、パレスチナの子どもたち、その他治安が不安定な国々では、子どもたちの「いのち」が脅かされています。なんの罪もない子どもたちが、おとなのさまざまな思惑によって振り回されています。非常に悲しいことですが、何もできないでいることに悔しい思いを抱いている方は多いことでしょう。戦争を止める力があるはずの国や組織も、それぞれの思惑で動くことで事態の改善は見通せないのが現状です。一刻も早く、世界各地での紛争が解決することを祈るばかりです。

国内に目を向ければ、米の価格が昨年度より約2倍にはね上がっている中で、「当事者」ともいえる農水大臣が「米を買ったことがない。売るほどある。」という発言をし、更迭させられました。あまりにも不適切な発言にもかかわらず続投させようとしていた石破首相ですが、与党からも続投批判の意見を受け、更迭となりました。一般市民と、権力と財力を持つ「与党」議員との隔たりを感じてしまいます。しかし、昨年の衆議院選挙によって「少数与党」となったからこそ更迭に追い込むことができたとも言えます。だからこそ、私たち市民に寄り添った感覚を持つ人にこそ政治を担ってほしいと思います。

7月の参議院選挙では、私たちの声を国会に届けられる候補者を応援しましょう!

(前号について) 訂正し、お詫び申し上げます。

演奏会当日についての記述に誤りがありました。久保田さんからは掲載前に訂正の依頼があったのですが、訂正せずに掲載してしまいました。正しくは以下の通りです。申し訳ございませんでした。

(期日) 平成16年(2004年)4月11日(土)

午前 リハーサル

午後1時 開演

※久保田さんの奥様の日記により

※右の文言は削除 「開演に先立ち主催の金子さんの挨拶。」

6月26日 県退教協 定期大会

県退教協定期総会は「2年に1回」開催されます。今年は、その開催年度となります。代議員(2名)は役員で対応しますが、何かご意見等がございましたら事務局までご連絡をいただきたいと思います。

お祝い金をいただきました!

震災前は、総会の際に「現役」の県教組双葉支部よりお祝い金をいただいております。コロナ禍からは総会が開催できなくても、継続して年度初めに頂戴しています。ありがとうございます。

原稿を
お待ちして
います



なぐり書きでも結構です。用紙もどんなものでもかまいません。テレビや映画などの感想も大歓迎です。ぜひ、投稿をよろしくお願いいたします。お待ちしております!

○ 住所等の変更及び会報の原稿は、下記の連絡先までお願いいたします。

○ 連絡先 (事務局長) 柴口正武 宅

〒976-0036 相馬市馬場野字寺内175-5

※ 電話は 090-2604-8941

※ ファックスは 024-522-7751

(弘済会福島支部/柴口勤務先)

※ 電子メールは shibaguchi0211@gmail.com



2025年 6月 1日

第414号

退教協ニュース

序章 ーシリーズ「ああ、懐かしき 双葉高等学校硬式野球部」(その1)ー

いわき市(大熊町) 高野正美

高野さんの投稿も、久保田さんの「第九への道」と同様に、「シリーズ」形式で掲載するようにいたします。

令和3年3月31日、36年間の教員生活を終えた。

小学校教員になる時にも、36年間の教員生活を続けている時でも、常に頭にあったのは、このくらいの大変さは高校時代の野球部で苦しかったのに比べれば何でもないという思いだった。

福島県立双葉高等学校硬式野球部は、甲子園出場3回。東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故後は、平成23年の夏の大会を最後に、単独での出場はなくなり、暫くは他校との合同チームで大会に出場していたが、平成29年3月31日、学校の休校に伴い野球部としての活動もなくなった。

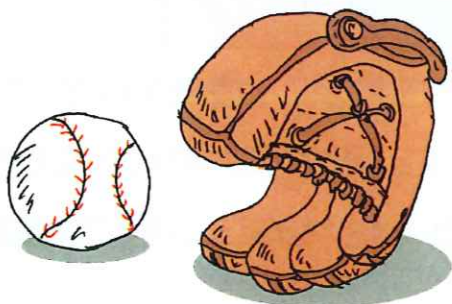


双葉高校甲子園初出場(1973年)

現在は、双葉町大字新山字広町80番地に校舎のみがボツンと取り残されている。



尚、文中には現在では許されない、昭和50年代当時は、



当たり前のように使われていた言動、県内いや全国の多くの所で行われてきた活動が多々出てきますが、当時の状況を忠実に表現するために使用しましたことをご了承ください。

—序章—

「ゲームセット」

第2シードだった最後の夏の大会は、5対6で学法石川に敗れ、俺達の夏は終わった。不思議と涙は出ず、ただ呆然とナイター設備のない小名浜球場の闇に赤々と灯るスコアボードのランプを見つめていた。「これで俺の双葉高校硬式野球部での活動も終わりか」という虚無感だけが、体全体を巡っていた。

去年の秋季大会の決勝で、勿来工業高校に敗れ準優勝し、今年の春季県大会でも同じ勿来工業高校に準決勝で敗れはしたものの、夏の大会では第2シードを獲得し、双葉高校の二度目の甲子園出場を目指して練習に取り組んできた俺達。

しかし、明日からは、いやだった今から普通の高校生に戻るんだという、乾いた気持ちだけが、ぼんやりと頭の中を巡っていた。

(つづく)

私事になりますが、双葉高校が初めて甲子園にいった年、私の姉は双葉高校の3年生でした。野球のルールも分からない姉でした

が、甲子園での応援団に加わりました。双葉町だけではなく、双葉郡全体が一つになった記憶があります。震災後の双高球児の一人に、私の大熊中時代の教え子もいました。彼のがんばりに力をもらったことが思い出されます。次号では鎌田さんの俳句の「続編」をお送りします。

高所恐怖症

by Monster 松

